

## 眞実

### 永遠の太陽

幾十万年の古にも、今日のように太陽は昭々として天空に輝いていた。幾百万年の後にも、今日の如くに、太陽は赫々として蒼空に燃えつづけているであらう。

人の世は変わる。一刻のよどみもなく人の世は変わる。

変つてもく、たとえ、太陽が西から出て東に入らうとも、絶対に変わることなく、厳然として天地の間を流れてゆく力がある。

曰く、「眞実」がそれである。

幾千年の昔にも眞実は輝いた。今日も又眞実は輝く。未来永遠に眞実は輝く。

眞実こそは永遠の太陽である。

眞実のみが未徹る。

菩薩というも眞実である。仏というも眞実である。

人間は迷う。迷うが故に、眞実に換えるにペテンをもつてし、策略をもつてし、時に悪逆無道をもつてする。けれども眞実は少しも狂うことなく久遠から永劫を一貫する。

幾千年昔にも眞実は勝つた。今も依然として眞実は勝ち、そして未来永劫に必ず勝ち続けてゆく。

この眞実に対する根本信念がぐらついた時、その人の生活もまたぐらついて来る。 1

### 眞実の力

石に矢のたつ例ためしがある。石にたつ矢の例ためしがある。

如何に悪逆無道の人の心にも、眞実の聖火を打ちつけければ、煌々たる靈性の光を發して来る。

如何に氷の如く閉ざしきつたる胸の扉も、眞実の熱の力の前のみには春の雪のように解けてゆく。

時に言語は通じないでも眞実は通じる。国境を越え、人種を超えて、眞実だけは流れてゆく。

老人でも子供でも、男でも女でも、全ての人類の唯一人でもが、眞実の前に頭を下げないものがあるだらうか。

唯に人間のみかは、人の誠は、動物の心にさえ通じるではないか。

これが人間業かと思はれるような奇蹟は、ただ不断の眞実の歩みの中にのみ生れる。

### 念願

眞実を愛し、眞実を生活し、眞実を讃美する国民は栄える。

眞の力は、唯眞実なるものの上にのみ与えられるからである。

我等の租先は、何よりも真実を愛する国民であつた。真実を通すためには、命をも投出してかゝつた。不真実なるものと闘うためには、如何なる苦難をも厭はなかつた。しかして真実なる生活者をばこれを神に祭つて讚美した。

鉄のような意志も真実から生れる。春のような温かい情も真実から生れる。百万一心の団結もまた真実から生れる。

ああ、この民族の血。真実の沸騰にえたぎつてやまぬ血の流、色を濃くせよ。輝きを増せよ。八千万悉くを真実の二文字によつて燃焼せしめよ。

## 生活

真実が欠けている時、如何に堂々幾千万言の雄弁も空言であり、真実の血が流れている以上如何に些なる営みも生ききつてゐる。よし刀折れ矢つきて倒れようとも、真実の歩みの上には後光がさす。その久遠の相そのものが、絶対勝利の全てである。

「誠まことこめて放ちし矢なり 念願のまことにあたるも、あたらざらんも」九條武子夫人  
噫、真実のみが、人生の光であり、力であり、意義である。故に我をして、真実の一道を歩ましめたまえ。

眼をとどて沈思かんがうれば、しきりに我を喚ぶ者あり、眼を開いて合掌すれば、切々として我を招く者あり。真実なる者にて在しますか。

親鸞聖人曰く「涅槃経に言く、真実と言うは即ち是れ如来なり。如来とは即ち是れ真実なり。」と。